

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	生き生きと支えあって暮らせる地域づくりの推進
------	------------------------

現状と課題

伊達市ニーズ調査では、ご近所の支えあい、助け合いでできると思う支援として「見守り・声かけ」「除雪」「おかずのおすそ分け」と答えた人が約65%いた。また、今後の生活の場所について「現在の住宅に住み続けたい」が68.1%、病院での生活・終末期を希望する理由は「介護力の不足」が52.8%と最も高い結果であった。今後さらなる少子高齢化に伴い支える側が減少するため、介護保険サービス等の公的サービスに加えて、住民同士の支えあい・助け合いといった互助も重要となる。そのため、地域との話し合いの場を設ける等取り組みを進めるとともに、できる限り高齢者が住み慣れた地域で暮らしていけるよう、サービスの充実と地域の担い手や人材の確保など支援体制等の充実が必要となる。

第8期における具体的な取組

○日常生活の支援体制整備

目標（事業内容、指標等）

○生活支援体制整備事業実施

生活支援コーディネーターの活動支援、第1層協議体及び支え愛★地域づくり座談会（2層協議体）の開催により住民の社会参加や地域の実情に応じた支え合いである互助の仕組みづくりを推進する。

支え愛★地域づくり座談会

開催地区数 令和3年度:4か所 令和4年度:4か所 令和5年度:4か所

開催数 令和3年度:8回 令和4年度:8回 令和5年度:8回

目標の評価方法

● 時点

中間見直しあり 実績評価のみ

● 評価の方法

・支え愛★地域づくり座談会の開催地区数及び座談会開催数を計上

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和 3(2021)年度
----	--------------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果	
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	<p>○支え愛★地域づくり座談会</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、座談会の開催はできなかったが、住民同士の互助の仕組みづくりへの取り組みとして、「支え合いボランティア」のモデル事業を実施した。</p>
自己評価結果【○】	<p>地域での座談会を開催することができなかったが、住民同士の互助の仕組みづくりへの取り組みとして地域住民に提示するため「支え合いボランティア」のモデル事業に取り組むことができた。</p>
課題と対応策	<p>これまでの活動から明らかになっている地域の課題を、地域住民と共有し、具体的な取組（例：「生活手助け・安否確認」）につなげていくこと、取組に必要な担い手の確保が今後の課題。</p> <p>地域の中でどのような活動が可能であるのかを、モデル事業での実践をとおして地域住民に具体的に提示していけるよう取り組みを継続していく。</p>